

ものである。

台風がかくのごとく梅雨型天気の原因となっているものとするならば過去の台風のうちどれくらいが、またいかなる経路のものが影響を及ぼしているかを調べたのが第2表である。表中台風経路のA型とは遠廻り型で朝鮮北部以北を通るもの、B型とは九州西方海上を北上し朝鮮中、南部を通過するもの、C型とは九州及び朝鮮海峡を通過するもの、D型とは本州を横ぎるものの4型に分類しており、表中の数字は同じ期間の台風の通過月日を示し●印は梅雨型の原因となった台風を意味している。すなわちA型台風においては全体の31%は梅雨型の天気

をもたらしB型では22%、C型では12%、D型では4%が梅雨型の原因となっている。しからば台風が通過して何日ぐらいして梅雨型になっているかといえは2日ないし4日で平均2.9日となっている。

3. 結 び

梅雨期以外の梅雨型気圧配置による長雨は全く異常気象であり、これは春の異常寒波の後に、あるいはまた異常高温の後に来るものが多く、8、9月の台風の後に多いというのも台風一過後の寒気の侵入に起因するものと思われる。それで予報者としてはこれらの異常気象の後に十分注意しておく必要がある。

〔支部だより〕

日本気象学会九州支部講演会

昭和33年度、第2回日本気象学会九州支部講演会は西部管区気象研究会と共催で下記のとおり行われ、約50名の参加を得て盛会であった。

なお本庁から高橋浩一郎氏、山田一氏が出席され講演をしていただいた。

記

1. 期 日 昭和33年11月5日～6日
2. 会 場 福岡県筑紫郡筑紫野町 公立学校 共済組合保養所紫泉荘

題 目	所属	講演者名	最低気候の地域性について	宮崎 荒木 一好
屋久島の雨と風について	屋久島	高橋 岩夫	蒸発散位からみた昭和33年の干ばつ	福岡 日下部正雄
九州の強風について	大分	笠村 幸雄	塩害の気象調査	長崎 菊池 繁雄
名瀬の風について	名瀬	栗林 直里	夜間輻射の測定について	鹿児島 植村 八郎
北部西部九州近海の風速	福岡	浦川 武雄	天気と輻射冷却の型について	鹿児島 植村 八郎
桜島火山爆発予測の現在までの経過	鹿児島	安井 豊 野田 義夫	月降水量の予想法	名瀬 福田 一世
桜島の地震波の速度および雑微動について	鹿児島	利光 貞夫	低緯度における台風進路の変化と本土への影響について	宮崎 今門 宗夫
九州地方の地震活動	佐賀	吉村 寿一	台風に伴う風速の分布	福岡 富島 四郎
阿蘇山噴火について	阿蘇山	山口 弘次	予報則の探究(第2報)	福岡 植木九州男
気温基準値の利用のしかたについて	福岡	保田井 勲	筑後川洪水予報法(第1報)	福岡 岡 千東 矢花 和一
福岡における寒候期の気候変動について	福岡	小島 隆義	第3次突風月間報告、海上解析	長崎 木下 正時
面積雨量の精度について	福岡	今山 正春	〃 上層解析	福岡 山田 三朗
大雨の出現度数を簡単に求める方法	福岡	土井 謙二	〃 地上解析	福岡 香原 信義
局地的豪雨や雷などのメソ気象学的研究	福岡	山田 三朗	昭和32年12月12～13日の突風解析	福岡 香原 信義
大規模な定常場の三次元的研究	鹿児島	岡村 存	特別講演 高潮の危険度の推定	高橋浩一郎
			〃 日本および太平洋上におけるジェット流の気候学的変動について	山田 一